

地域の皆さまに信頼される病院として
安全で質の高い医療を提供します。

独立行政法人地域医療機能推進機構
神戸中央病院
〒651-1145
神戸市北区惣山町2丁目1-1
TEL 078-594-2211
FAX 078-594-2244
<http://kobe.jcho.go.jp/>

新年度のご挨拶

まず初めにB型肝炎の院内発症が否定できない事例につきまして、昨年度末に報道機関を通じて公表させていただいたところです。ご遺族の皆様には改めてご心労をお掛け致しましたこと、心からお詫び申し上げます。また近隣の患者様、医師会の先生方を含め多くの方々にもご不安をお掛け致しましたことをお詫び申し上げます。感染経路など特定には至りませんでした。これを機会により一層、感染対策に関してガバナンスを徹底して参る所存です。

さて病院の今年度の方針としましては救急応需体制の更なる体制強化など、急性期病院機能を充実することはもちろんですが、国が力を入れております地域包括ケア政策に関連して、以下の3方策を挙げました。まず本院では地域包括ケア病棟の立ち上げです。これは特別手厚い医療看護は必要ないとは言え、種々の理由により数日間の短期入院期間では自宅に戻れない患者さんのために、自宅にお帰りになるのを条件に最大2ヶ月まで入院期間が延長できる病棟の整備です。次に附属の介護老人保健施設（以下老健と略）では在宅強化型への取組強化を図ります。具体的には入所期間を一度入所できれば生涯とするのではなく、数ヶ月間と短期にさせていただくことにより、数に限りのある老健を高齢者の方々に公平に使っていただけるようにする取組です。老健では設立当初からこの方針は挙げられていましたが、習慣的に長期化していました。最後は附属の訪問看護ステーションを機能強化型へ転換を目指します。その理由は自宅にお帰りになった患者さんが、体調を整えたまま在宅医療を長期にわたって可能にするため、訪問看護を利用しやすくする体制に改革をするものです。これらの諸策はこれからの高齢化社会に対応していくため、この地区の住民の皆様やかかりつけ医療機関の皆様とで、セミナーなどの機会を利用して連携をとりながら進めていきたいと考えています。今年度もよろしくお願い致します。



院長 大友敏行



近隣医療機関のご紹介

高原耳鼻咽喉科

〒651-1111 神戸市北区鈴蘭台北町1丁目10-2 鈴蘭台プラザ2F
 TEL 078-594-6313 FAX 078-594-6323
 診療科目：耳鼻咽喉科



高原哲夫 先生

診療時間	月	火	水	木	金	土	日	祝
9:00~12:00	●	●	●	×	●	●	×	×
15:00~19:00	●	●	●	×	●	×	×	×

但 土曜日は13:00まで



鈴蘭台駅の線路沿い北の鈴蘭台プラザで平成3年に耳鼻咽喉科の診療所を開設して25年になります。この間当診療所では、地域の皆様の健康のため、より快適な生活を送って頂くために、当然ではありますが以下のモットーを守るべく努めてまいりました。1. 診察をすまれた後、高い満足度を持っておかえり頂くように努める。2. 受診の動機となった訴え(困っておられること)から、なるべく早急に開放してさしあげる。3. 地域の皆様のかかりつけ医として、耳鼻咽喉科関連の病気に限らず、医療全般に関しても相談に応じて、しかるべき医療機関を紹介する。

き医療機関を紹介する。

神戸大学、ピッツバーグ大学、労災病院、県立加古川病院では、臨床現場で様々な病気に接し、治療や臨床に即した研究をしてまいりました。この経験を生かして、患者様にとって最善となる治療を選択し、入院や精密検査が必要であれば早急に高次の病院を紹介しています。主たる紹介病院としては、JCHO神戸中央病院、神戸大学病院、神戸中央市民病院等であり、とりわけ神戸中央病院には、4名の耳鼻咽喉科専門医が在籍され、兵庫県でも屈指の充実したスタッフが揃っている病院であり、ひとかたならぬお世話になっております。加速する少子高齢化時代を迎えて、地域に根ざした職域の垣根を越えた連携が求められております。どうぞ今後ともよろしくお願い致します。



次回予告

第8回 JCHO神戸中央病院 市民医療セミナー

テーマ：「あなたの血糖は大丈夫？」～知らぬ間に身体をむしばむ怖い糖尿病の話～

講師：糖尿病内科医師・糖尿病看護認定看護師・糖尿病療養指導士管理栄養士

日時：平成28年6月18日(土) 開場 12:00 開演 13:00

会場：すずらんホール(神戸市北区鈴蘭台西町1丁目26-1)



第7回 JCHO神戸中央病院 市民医療セミナー開催の様子

泌尿器科部長 源吉 顕治 先生



2月としては季節はずれの暖かい土曜日でしたが、大勢のかたに参加していただきありがとうございました。

“頻尿の原因と対策 ～トイレが近くてお困りのかたへ～”という演題でお話させていただきました。

高齢者のかたで、頻尿でお困りの方はたいへん多くおられます。排尿日誌や排尿状態の質問票を使えば、自宅でも頻尿の原因を見分けることができますし、頻尿のタイプによっては生活の改善で頻尿の改善が期待できることをお話しました。

当院へ通院中の患者さんたくさん来場されておられ、みなさんの医学に対する熱意を感じました。今後も北区の拠点病院として、住民のみなさまに情報発信を続けたいと思いますのでよろしくお願い致します。

内科医師 太田 矩義 先生



先日は市民医療セミナーへ多くの方々に御来場頂きましてありがとうございました。腎臓の働き・生活習慣による腎臓障害・腎臓に発症する腎疾患についてお話させて

頂きました。腎不全から透析へ至る原因は生活習慣に伴う腎臓障害が最も多いといった現状で有り、早期治療により透析へ至る可能性を軽減できると考えております。健診結果などから臓器障害を早期発見することで生活習慣是正を提案し、生涯に渡って自身の腎臓で過ごせるお手伝いができるように日々の診療を頑張ってお参ります。どうぞ宜しくお願いいたします。

外来副看護師長 永瀬 紗奈衣



天候の悪い中、多くの方々にご参加いただきありがとうございました。熱心にお話を聞いていただき大変うれしく感じました。今回お話し

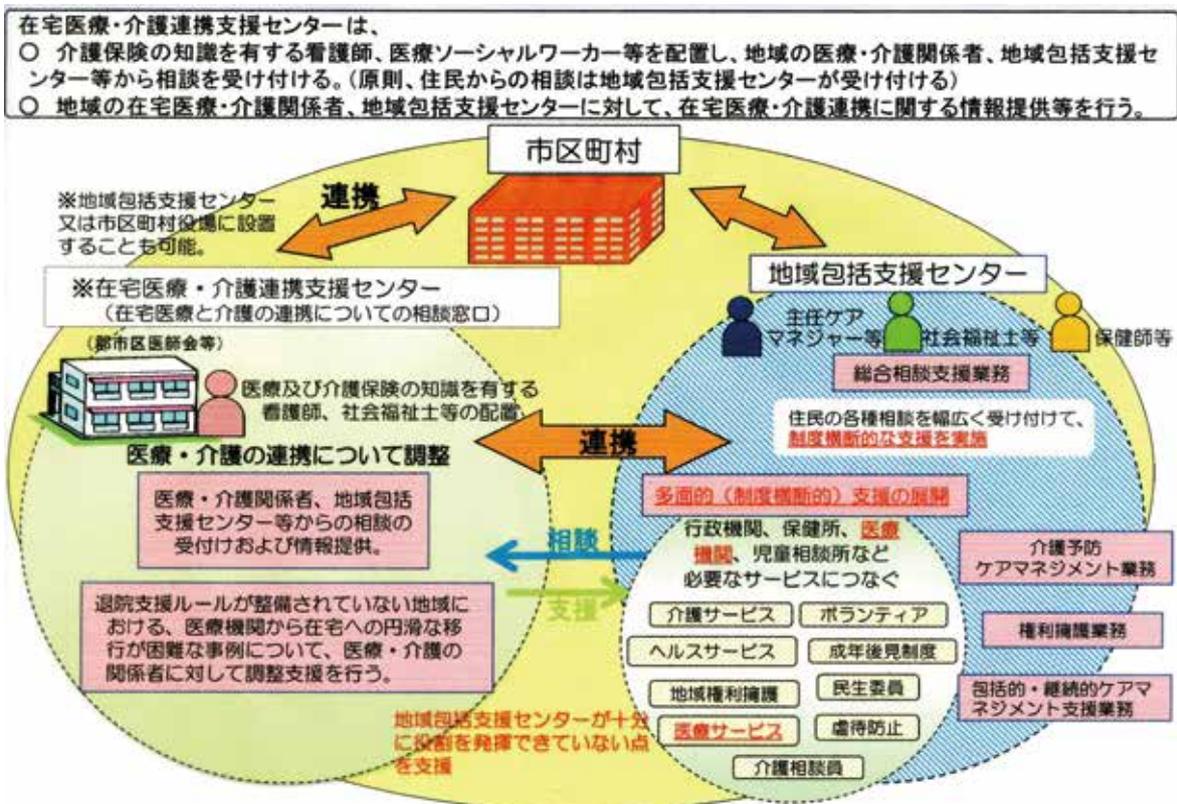
した「腎臓を守る日常生活」は、地域の皆様にとって健康的な生活につながるものだと思っております。参考にしていただければ幸いです。



在宅医療・介護連携支援センターの委託・開設について

住み慣れた地域で医療・介護・予防・住まい・生活支援が包括的に確保される体制を目指す「地域包括ケアシステム」は、保険者である市町村や都道府県が、地域の自主性や主体性に基づき、地域の特性に応じて作り上げていくことが必要とされています。利用者の介護の計画・実務をおこなううえでケアマネージャーがその業務の中心を担いますが、そのなかで医療機関との調整が業務上の負担となっていることがアンケート調査でも示されています。ケアマネージャーが困難事例などについて相談するのが「地域包括支援センター」（「あんしんすこやかセンター」）ですが、ここでも相談件数の増加・複雑化により、有効に対処できないこともあります。そこで、市区町村が中心となって、地域の医師会等と緊密に連携しながら、地域の関係機関の連携の構築を図る目的で「在宅医療・介護連携支援センター」が構想されました。神戸市では、「在宅医療・介護連携支援センター」は、神戸市医師会に一括委託され、各区の事情を考慮して個別に開設されることになりました。ここ北区では、幾つかある「在宅医療・介護連携支援センター」の事業のうち「相談事業」を中心に当院と済生会兵庫県病院に委託されることになりました。介護についての利用者（市民の皆さま）の相談窓口は、従来通り「地域包括支援センター」（「あんしんすこやかセンター」）ですが、そこで解決が困難な場合は「在宅医療・介護連携支援センター」にスタッフを通して依頼されることとなります。「在宅医療・介護連携支援センター」の事業としては、介護スタッフからの相談業務以外に、地域の多職種スタッフの連携会議を開催し、住民の皆様への啓発活動も行ってゆきます。

副院長・地域医療推進部長 松本圭吾



在宅医療・介護連携支援センターと地域包括支援センターの役割について

地域包括ケア病棟のご案内

JCHO神戸中央病院は、地域医療支援病院として、急性期医療に加えて在宅療養への架け橋となる『地域包括ケア病棟』を、平成28年4月6階病棟に60床開設いたしました。

地域包括ケア病棟とは、急性期での治療が終了し症状が安定した患者様に対し、在宅復帰に向けてリハビリや復帰支援などを行う病棟です。地域の医療機関、施設の先生方からご紹介を頂き、ご入院された患者様に主治医、看護師、専従リハビリスタッフ、在宅復帰支援担当者（医療ソーシャルワーカー）等が協力して、患者様のリハビリや在宅支援（相談・準備）を適切に行ってまいります。今後も地域完結型医療を目指し更なる連携強化に努めていきたいと考えております。何卒よろしくお願いいたします。

1. 地域包括ケア病床とは？

急性期治療を終了し、直ぐに在宅や施設へ移行するには難しい患者様に対し、在宅復帰に向けて医療管理、診療、看護、リハビリを行なうことを目的とした病床です。

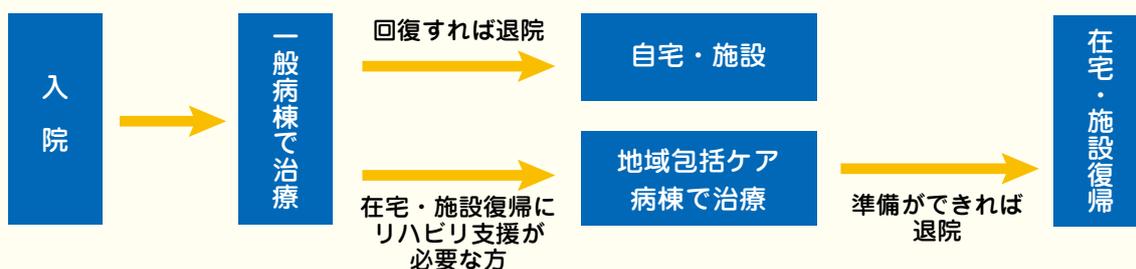
2. どんな場合に入院するのですか？

在宅あるいは介護施設に復帰予定の方であればご利用できますが、主に次のような患者様が対象です。

- ①入院治療により状態は改善したが、当院にてもう少し経過観察が必要な方
- ②入院治療により症状が安定し、在宅復帰に向けてリハビリテーションが必要な方
- ③在宅での療養準備が必要な方

状態に応じ入院期間は調整しますが、60日を限度としております。

一般病床から地域包括ケア病棟への転棟は主治医が判断して、患者様やご家族の方へ提案させていただきます。地域包括ケア病棟へ移動し継続入院となります。



3. 入院費について

入院費は定額*で、リハビリテーション・投薬料・注射料・簡単な処置料・検査料・画像診断料・入院基本料の費用が含まれます。

*差額ベッド代等保険診療対象外のものや使用が認められる処置や特別な薬剤などにかかる費用は含みません。費用に関するお問い合わせは医事課まで TEL：078-594-2211(内線2127)

4. お問い合わせ

地域連携室 TEL（直通）：078-591-3461

新 任 医 師 紹 介



ヤマシタ サトシ
山下 哲史：小児科

こどもがこどもらしく過ごせること、ご家族が笑顔でいられることを大切にして地域に貢献できるようがんばります。よろしくお願いいたします。



タモト ユウタ
田本 勇太：腎臓内科

本年4月より赴任させて頂きました。至らぬ点もありますが、精一杯頑張りますので宜しくお願いいたします。



ミトウ フミタカ
美藤 文貴：呼吸器内科

4月から勤務させていただき事になりました。宜しく御願い致します。



コナカ ヨシトモ
小中 義禎：消化器内科

4月より勤務させて頂くことになりました。迅速かつ、丁寧な内視鏡診療に努めます。よろしくお願いいたします。



タカギ カズノリ
高木 一典：麻酔科

はじめまして。この4月から麻酔科で勤務させていただきこととなりました高木です。どうぞよろしくお願い致します。



ヒモリ チヒロ
比森 千博：総合内科

4月より総合内科で勤務させて頂くことになりました。精一杯頑張りますので宜しくお願い致します。



ハナヤマ アサ
花山 亜沙：総合内科

4月より総合内科で勤務させて頂く事になりました。至らない点も多くご迷惑をおかけすることあるかと思いますが、日々努力して参りますのでどうぞよろしくお願い致します。



カワイ ユミコ
河合裕美子：総合内科

4月より着任させて頂きました、河合と申します。京都から引っ越してきて分からないことばかりですが、精一杯頑張りますので宜しくお願い致します。



スエヒロ ヒロトモ
末廣 大知：神経内科

ご縁があり、4月より勤務させて頂くことになりました。1人1人丁寧に診察していく所存です。どうぞよろしくお願い致します。



タヤ トシヒコ
田谷 俊彦：循環器内科

初期研修医を終了し、4月から循環器内科医として、引き続き働かせて頂くことになりました。精一杯頑張りますので宜しくお願いいたします。



サカイ トモヒト
酒井 知人：外科

まだまだ未熟ではございますが、誠意をもって診療に務めたいと思います。どうぞよろしくお願い致します。



ナガイ トシキ
永井 利樹：脳神経外科

地域に貢献できるよう頑張りますのでよろしくお願い致します。

研修医 (1年次)



マツモト アイ
松本 藍



ミヤモト カズノリ
宮本 和徳



タカバタケ レナ
高島 伶奈



タケウチ ケント
竹内 健人



タムラ ショウジ
田村 証司

退任医師のお知らせ

消化器内科：梶田 昌隆
小児科：都間 佑介
腎臓内科：渡邊乃梨子

総合内科：松本 剛
麻酔科：川嶋 浩平
神経内科：原 敦

研修医：草野 淳
松澤 惇



乾癬について

乾癬とは、「皮膚の炎症」と「表皮の新陳代謝の異常」により起きる皮膚疾患です。

皮膚の炎症によって毛細血管が拡張され赤みを帯び、表皮が正常な皮膚と比べて10倍以上の速さで作られるため、過剰に作られた表皮が厚くなり、鱗屑となってフケのように剥がれ落ちます。

日本では10-20万人、0.02-0.1%程度の患者さんがいると言われており、男女比は2:1、20歳代と40歳代に好発します。

根本的な原因はまだ不明ですが、遺伝性素因やストレスや風邪、喫煙、飲酒、食生活などの外的因子と糖尿病、高脂血症、肥満などの内的因子が加わって発症すると考えられています。

皮疹は頭部や肘、腰、膝などの擦れやすい部位によく見られ、爪にも症状が見られます。また7%程度に関節の腫脹、疼痛、変形を合併することがあります（関節症性乾癬）。大部分はDIP関節などの末梢に非対称性に起こりますが、脊椎、仙腸骨、アキレス腱などの付着部にも症状が出現し、進行すると破壊性関節変形を起こすことがあります。



手指の腫れ・痛み



症状は、指先から1つ目の関節（DIP関節）に起こりやすい

腰痛・首すじの痛み



アキレス腱をつまむと痛み



歩くと足の裏が痛み



爪の乾癬



関節症性乾癬の患者さんは爪にも乾癬の症状が出やすい



3年後



◆治療

①外用治療（塗り薬）：ステロイド外用薬、活性型ビタミンD3外用薬

「擦り込んで塗る」ことが刺激となり症状が増悪することがあるため、塗り方の指導が必要です。また長期間ステロイド外用剤を塗ることで皮膚が薄くなったり、毛細血管拡張をきたすことがあるため、皮膚症状に応じて適切な外用薬の選択が必要となります。

②内服治療；エトレチナート（ビタミンAの誘導体）、シクロスポリン（免疫抑制剤）

③紫外線治療

皮膚の症状が広範囲に出ている場合や外用剤では十分に効果が得られない場合に内服や紫外線治療を併用します。

④生物学的製剤

他の治療では十分に効果が得られない場合や関節症状を合併している場合に使用します。高額医療となり、当院ではレミケード、ヒュミラ、コセンティクスから選択します。

◆紫外線治療機械

今年3月に皮膚科外来に紫外線治療デルマレイ-200（UVA、NB-UVB）を導入しました。尋常性乾癬以外にも類乾癬、掌蹠膿疱症、尋常性白斑などへの使用を予定しております。



◆かかりつけ医の先生方へ

乾癬は増悪軽快を繰り返す慢性皮膚疾患の一つです。完治するのは困難な場合がありますが、根気良く治療を続けて症状を和らげ良い状態を長く保つことができます。

日常生活や治療に対するストレスや悩みでQOLが損なわれるため、患者さん一人一人の皮膚症状と生活サイクルに合わせて治療方法を選択する必要があります。

写真のような皮膚症状がある場合は皮膚科への受診を勧めてください。また乾癬の患者さんで関節症状を伴っている場合は生物学的製剤の適応となりますので当院皮膚科にご相談下さい。

第3回「神戸市北区医師会・JCHO神戸中央病院 医療連携セミナー」のご案内

「外科」と「整形外科」の診療の現在 in JCHO 神戸中央病院

日時：平成28年6月23日（木）19時00分～20時15分 場所：当院 2階会議室